

外来種イタチハギの伐採について

蒲生干潟自然再生協議会事務局

1. 現在の状況

東日本大震災から 13 年が経過し、蒲生干潟域の西側の元堤防跡地などに外来種樹木であるイタチハギやハリエンジュが大きく育ってきています。特に外来生物法により生態系被害防止外来種として選定されているイタチハギは、大きくなるとともに、生えている場所が年々少しずつ増え続けており、ヨシ原の中にも点在するようになっています。(図 1、図 2)

2. イタチハギの伐採について

イタチハギが繁茂している状態は、蒲生干潟自然再生事業地の自然として相応しい状況とは言えません。環境保全のためにイタチハギの伐採をすべきと考えます。3 月に行われました事務局会議におきまして、ここは、蒲生干潟自然再生事業区域なので、外来種といえど、イタチハギの伐採を行うことについて、まず協議会において方針を伺ってからということになりました。

つきまして、イタチハギの伐採につきまして協議会の方針をお伺いします。



図 1 イタチハギの生育域
(黄色域)



図 2 イタチハギの状況
Ⓐ地点 (R5/7/10 撮影)